

# 郷の集い

行 会  
 委員 治  
 責任者 鉄  
 編集者 木  
 印刷 青  
 印刷 野  
 印刷 久

## ふりかえつてみて

校長 齋藤 義宣



四十年の教員生活を、ようやく終わろうとしているこの頃、その歩んできた、私の人生のいろいろな思い出にふける日が多くなってきました。その思い出の中から、いくつか学んできたことをつづつてみたいと思います。

(1) 日の丸の旗が目にした。中国大陸の張家口で終戦をむかえた。私の部隊は、降りしきる秋雨の泥沼の中を、ひざまでつかり、日夜をわかつた強行軍で、万里の長城を越え、天津にようやくたどりつきました。それから、約八ヶ月間、進駐してきた、米軍の捕虜として、連日、日夜にわたる使役で、こきつかわれまし

た。敗戦と言ふ現実のことからは、それまでの日本軍の威厳はどこえやら、全く姿をかきけし、みじめな浮虜生活でした。昭和二十一年四月二十五日、待ちに待った日本への帰還命令が出ました。天津から塘沽港に、乗船検閲をうけ埠頭に上がった。その時停泊していた輸送船の船尾に、へんぼんとして、日の丸がひるがえっていました。終戦後一度もみなかった日の丸、それを見た時の感動は、今も忘れることが出来ません。私の一生の間中、あのときの鮮やかな日の丸の旗が目には沁みてはなれないと思います。祖国があったと云う感動で一杯でした。

(2) 身体をいたわろう。最近、同級生や年下の人の計報をききます。あんなに元気だったやつなのにと、言い思い出がのります。私は、四十年間の教員生活の中で、悪くは言いません。生活が苦しいと言ふことは殆どありませんでした。盲腸をきって一週間程入院したことを除けば、幸いにも元気でつとめさせてもらいました。現在までの強健な身体を育ててくれた両親にどれだけ感謝しても足りないと思います。二十代のときは二十代の、三十代のときは三十代の、六十代になれば六十代のときの節制が必要だと思えます。その努力が両親の恩に報いることであり、社会に貢献する基だと信じます。

(3) 他人の悪口を言わない人。人の欠点や、陰口を得々として自慢げに話す人がいます。私はこうした話題は出来る限りさけて、その話す人を軽べつしました。長い人生を互るのですから、生い立ち人生観は夫々に違っている筈です。いろいろな問題も生じてくると思えます。精一杯生きようとしているのです。人の欠点や悪口は出来る限り、かばってやる気持ちを持ちたいものです。それが積尊の慈悲の心につながるのではないのでしょうか。

(4) 無駄をなくし金銭を大切に。私は幸せなことに、三男一女の子供と、七人の孫達がいいます。夫々元気に育っています。みんな揃って夕食などするとき、言えない程の幸福感と、この子達がやがて来る、二十一世紀を、どうやって、生きぬいてくれるかの不安感をぬぐい去ることが出来ません。スーパーで幾つもの袋をさげて帰って来て、またたく間にゴミを散らかす孫達を見て、物を大切に、一円でも貯金をしようとする心づもりを少しでも育ててやりたいと思えます。

(5) 自分の人生は自分が築く。私は小さいときから、徳川家康の遺訓「人の一生は重荷を負って遠き道を行くが如し」を家の中でみながら育ってきました。苦難にあった時でも、この遺訓を思い出して、今日まで自分の人生をわたってきました。これから命ある限り、自分を育ててゆきたいと念じております。

## 我が師の恩

PTA会長 北林 孫右工門



皆さんご卒業おめでとうございます。長かった小学校生活の中で、色々と勉強やスポーツにはげみ、立派に成長されました。晴れて卒業の日を迎えられ、六年間の月日の過ぎ去るのははやいものです。過ぎて見れば在学中幾多の日に雨の日も風の日も毎日学校にかよって、色々な知識を習い、又幾人かの諸先生方々と出会い、別れて、楽しく又ある時には淋しい思い出が今一番深く身にしみて来るころだと思えます。

これを機に中学校へ行かれますが、上級だった先輩もおられますからその人達とも仲良くし母校の為に頑張ってください。それが教えを受けられた先生方のご恩に報いることとなります。しっかりと、いついつまでも忘れずに友達と語り合ってください。

私もこの二年間PTAのお世話をさせて頂きました。が良き思い出一杯です。すばらしい新校舎が落成され、皆さんと共に幸せでよい時にめぐまれました事を心より感謝致しております。新郷校下民の暖かいご支援とご協力を賜りましたPTA会員の皆さんと、校長先生をはじめ諸先生方々に心より敬意と感謝を致す次第でございます。私達PTA役員も終わりになりまして、昭和六十一年度の新役員さん方々には私達の出来なかつたことや、色々な問題等がありましたならば語り合い、より良いPTA運営と活動を展開して下さる事をお祈り申し上げます。そして、校下民の皆様の今後共々暖かい心で新郷PTAをご支援下さいますようお願い致します。

最後になりましたが、私達卒業生PTAの皆々様と共に今後のPTA活動と学校をご支援致しますことをお誓い致します。







高戸良英

ぼく達の、四年生の時から  
の担任の先生は、こわい  
と評判の宮川先生だった。  
どんな授業をする人だろう。  
こわかったが、ちよっぴり  
わくわくしていた。しかし、  
先生はやさしく、授業では  
内容がよく分かり、びっく  
りした。時には、モモパッ  
チン、ゲンコツなどをされ  
て痛かったが、とても楽し  
い三年間だった。



龍田正則

ぼくは、うち気な、性格  
だけど、中学校になっても  
人のさそいにのったり、い  
じめられたり、されないよ  
うに、がんばっていきます。  
そして、中学校生活を、楽  
しくするため、スポーツや  
勉強を、一生懸命、したい  
です。中学へ行って、こ  
の小学校での思い出は、大  
切にとっておきたいです。



高戸善孝

もうすぐで大人の仲間入  
りだ。  
なぜ。と言うと、中学生  
になるからだ。  
だからもう、大人、大人。  
これからは、他の人によ  
らず、自分で、計画を立て  
て、日常の生活態度を、き  
りとしたものになりたい。  
中学生という、部活に  
勉強と大変そうだけど頑張  
るぞ。



安竹正樹

「いつてきます。」で始まっ  
た朝、それがいつの間にか、  
六年間も続けてきた。早い  
もんだなあ。もう卒業、小  
さい時には、よく学校に走っ  
てきたもんだ。今ではそ  
れがなつかしい。グラウンド  
を素足で走ったり、プール  
の上で遊んで、おこられ  
た時もあった。いい思い出  
をつくってくれた、新郷小  
学校。決して忘れない。



山本晶夫

あと一步で念願の中学校。  
中学校生活の中には、つら  
い事、苦しい事、楽しい事  
でいっぱい。けれど、そ  
の苦しい事などをのりこえ  
て行かないと中学校ではだ  
めになってしまう。  
スポーツに授業に歯をく  
いしばって短い中学校生活  
を三年間を過ごして行きた  
い。この学校の事も決して  
忘れないようにしたい。

もう一度考えよう

宮川 哲二郎

今冬の豪雪。毎日が雪と  
の戦いだった。  
子供達は雪が大好き。雪  
の校庭にサッカーボールを  
追う姿も珍しくなかった。  
今日は快晴。さっそく校  
庭でかまくら造りでもと呼  
び掛けるがさっぱり乗って  
こない。雪合戦ならと言  
と必死になって雪玉をなげ  
あう。かまくら造りのよう  
に全員が協力しなくてはな  
らぬような事には関心を示  
さないのである。

# 新郷だましがんばれ

青木晃治

六年間、ずっと同じだっ  
たクラス編成。中学になっ  
たら、新郷の友達だけじゃ  
なく、芦原とも、本荘とも  
いっしょになる。小さい小  
学校だったので、友達は少  
なかったけれど、いろいろ  
な行事のたびに、いろいろ  
な友達を作った。  
中学に行ったら、何でも  
話し合える親友をつくりた  
い。

青木隆康

もうすぐ中学。中学校へ  
行ったら部活、その他いろ  
いろでつかれる。しかし中  
学校は小学校とちがって、  
帰るのも遅くなるだろう。  
中学、高校と行って、いい  
大学に、入れるようにした  
い。そして、いい会社に、  
入れるようにしたい。  
中学、高校、いけたら大  
学へいっても、がんばりた  
いと思う。

高島邦央

「入学おめでとう。」  
小学校への入学の時、そ  
う言われて喜んだ。ランド  
セルをしょって。  
「中学生は、カバンをしょ  
っていくの。」  
と母に、聞いた時がある。  
その時は、カバンや、学生  
服のことしか考えていなかっ  
た。  
「中学への入学おめでとう。」  
という日も、そう遠くない。

高橋文彦

この三年間、宮川先生と  
いういい先生にめぐりあえ  
てよかった。もし、めぐり  
あえていなかったら、今、  
ぼく達は、どのようにになっ  
ていただろうと想像しただ  
けでも、ぞおくとする。宮  
川先生に慣れるまでは、苦  
労したけれども、慣れてし  
まうと、授業も、何もかも  
が楽しくなった。宮川先生  
には、とても感謝している。

新田文雄

もう、卒業も近くなって  
来た。卒業をすると、少し  
の間だけ、休みがあるから  
引っこしが楽に出来る。  
北潟へ行ったら、二階で  
お姉ちゃんの部屋を整理も  
するし、机をどこにおくか  
も考えなければならぬ。  
やっとな、本当の家に過ごせ  
る。八年間、新郷小学校に  
いるのもあきてしまった。

親も子もじっくりと考え  
てみようではないか。







新郷 由紀子

私は、家に居る時より、学校に居て遊んでいるのが大好きです。勉強は好きじゃないけれど、みんなと元氣いっぱい遊べるという事が、うれしいのです。バレーボール・フット・おにごっこ、いろんな楽しい遊び。新しい体育館で思っきり遊べた思い出、決して忘れません。とても楽しかった、小学校生活でした。



齊藤 陽子

四年ごろから、宿題を忘れたため、名物『ももばっちゃん』を受けたこと、六年になり、授業のおしゃべりで、冷たい雪の上を、はだしで走ったことがあった。けど、中学校では『ももばっちゃん』や、雪の上を走らされる事などはないだろう。この六年間が、とてもよい勉強になったと思う。



篠崎 智子

新しい校舎で勉強したのは、二年。その二年がとっても長く感じた。こんなに立派な、学校を造って下さったおかげで良い学校が出来た。ランチルームが出来たので四、五、六年が楽しく食べられるようになった。時には、全校で食べた。だから、一年から六年がとっても仲よく出来た。



土田 美鈴

卒業もまじか。「中学に行ったらなにをしようか。」と迷っている。「中学校へいったら、何の部活にはいろうか。」と思いつながら、卒業式をまっている私。私のゆめ・あこがれの的、『新体操』小さいころからあこがれていた演技。小学校では、思い出がたくさん。このことを心の中に収めてがんばりたい。

# 卒業してもがんばります

北林 美智栄

この六年間、いろんな事があった。四年生の時、初めての新校舎で、とてもうれしかった。が、今では、ひびが入っている。でも、こんな立派な学校から卒業する事は、とてもうれしい。ずっと、この学校にいたい。が、よく、よく考えれば、もう卒業なのだ。六年間は、とても早いものだ。

北嶋 知子

まもなく中学生。今までの、小学校生活とちがって「これして」「あれして。」と、たよらず、自分のことは自分でしなくてはならなくなる。それに、家での、手伝いなども、しなければならなくなる。いつまでものんびりとしていられない。中学校へ行ったら、しゃきつとして、がんばらなくては。

高政 裕子

田舎っていいなあ。私はそう思う。だって、天気の日には、青空が広がっている。白い雲がきれいだから。私は、都会の人は、なぜ田舎で住まないのかなあと思う。こんなに、いいのになあ。私は、ずっと田舎に住みたい。この新郷に、住みたいって、みんなも思っているかなあ。

五十川 美津子

例年この時期は年間保育の総仕上げをするために、大奮闘の最中です。毎日をただ多忙に過ごしてきて、卒園式当日ふと静まってみると一瞬胸にくるものがあります。が、それも子ども達も元気に手を振って後も振り向かず行く姿を見送るところからと断切れます。それもその幼稚園時代のことは忘れ去られていくものです。ふと思ひ出すことがあるとすれば後を振り返り向く年代に達してからの事でしょう。しかし、子ども達の人格の基底に参与した事は事実です。一般に思ひ出というものは日常のまるで予想

しないところで、子ども達の心に残ったりします。それがその子の慰めになり力になり、潤いになってくれるとしたら嬉しい事です。かつてみんながそうであったように、一年生になる日を指折り数えて待っている子ども達の晴れやかな姿を見るこの月は「もつと力があつたら」という思いがふと脳裏をかすめる反省の時でもあるのです。

市野 弘子

一年生の時に、皆さんとお別れしたのに、もう、卒業ですね。御卒業、本当におめでとうございます。十六人でのスタートでしたが、途中で青木君が転入して、一段とにぎやかになりました。

ちようど、あの頃、書き方の研究をしており、皆さんに「あ」の字から順々に指導していった事を覚えています。今、皆さんは、どんな文字を書いているでしょうか。当時の資料を開いてみましたら、立派な文字ができました。

又、春休みになって、やっと完成したのですが、文集も作りました。文集も開いてみましたら、やはり、一人一人の作文が、個性のある立派な文字で印刷されていました。

作文を読んでいくうちに



一人一人の当時の姿が、鮮やかに思い出されてきました。今は、すっかり校舎も新しくなりましたが、あの頃は、平屋で、一年生の教室は特に暗くて、よく蛍光灯をつけていました。グラウンドには、芝があり、はだしで芝の上を歩くと、とても気持ちよかったです。朝礼の時、その芝の回りをよく走りました。上級生の後から、かわいい足どりでチョコチョコと走っている、その後から、先生がのろのろと追いかけてきました。

時折、皆さんの成長された姿を見かける事がありますが、とても嬉しくなります。中学校での、活躍をお祈りします。



# 祝卒業

藤井 さち江

御卒業おめでとうござい  
ます。御父兄のみなさんも  
ご家族の方々も、さぞお喜  
びの事とお察し致します。

初めて会った昭和五十六  
年四月一日、二年生の教科  
書を配る時、全員、私を見  
つめ、息を殺して待ってい  
ました。生気にあふれた  
顔をしていました。私も  
この子たちと、今から一生  
懸命人生を遂行直すことが

できると思うと、うれしく  
なったものでした。それか  
ら二年間、悪戦苦闘の日々  
でしたが、一日一日が楽し  
く、元気になるようになって  
と改めて思ったものでした。

いつまでも三年生でいて  
くれたらと内心思う反面、  
どんな人になるのだろうか  
想像しては楽しんでいまし  
た。担任が変わって、四年  
生になると、急に大きくな  
たように思え、頼もしくな

## わが子の卒業を迎えて

高戸 千代子

たくさんの思い出を作っ  
た小学校生活も終わりを告  
げようとしています。

これからは、小人数から  
大勢に混じって学んでいか  
なければなりません。今ま  
で以上に、辛い事もあるが、  
くじけずに前進していい  
ほしいと思います。

中学時代は、将来につな  
がる大事な時なので、勉強  
にスポーツに一生懸命打ち  
こんで、どんな困難にも負  
けない意志の強い、誰から  
も好かれる人に成長してい  
てほしいと願っています。

青木 友子

生まれた時には、たった

りました。又、最近の成長  
ぶりには目のみはるものが  
あります。そして、いよいよ  
卒業なのです。何につけ  
ても、ひとりひとりの顔と  
でき事が浮かび上がっては、  
空想の世界に入っているこ  
の頃です。

これから、十七人がひと  
りも横に逸れることなく、  
社会人になってくれたらと  
思っています。どうか、自  
分自身を精進して、目標に  
向かって進んで下さい。期  
待しています。

龍田 芳子

今年例年になく大雪に  
見舞われ、臨時休業や始業  
時刻の遅れ等、度々下級生  
に連絡している我が子を見  
ていると、幼い子がいつの  
間にか成長した事、改めて

六年間の学業の尊さ、校長  
先生はじめ諸先生方の御教  
訓の有り難さが身にしみる  
思いが致します。長い人生  
において忘れる事の出来な  
い思い出を胸に、小学最後  
の勉学に励んでいる十七名  
の皆さん御卒業おめでとう。

最近テレビ等で「いじめ少  
年自殺」を見るにつけ、大  
人にも責任があると思いま  
す。中学生になれば環境も  
変わりますが、新郷校で養  
った命の尊さ、優しさを身  
につけて立派な中学生にな  
って欲しいと願います。

青木 知里子

小さな巣の中にいた小鳥  
たちも春のおとづれと共に  
大きな巣に移り変わろうと  
している。親鳥は成長の喜  
びと不安が入りまじって何  
とも言えない気持ちである。

背がそり返るような重た  
いランドセルを背負って入  
学した日がついこの間のよ  
うに思われる。最近特にた  
くましく成長したわが子  
を見るにつれ、なつかしい思  
い出が走馬灯のように私の  
頭の中を通り過ぎていく。

高戸 ひな子

思えば、いろいろな事が  
ありました。自分のやるべ  
き事もせずに、泣いている  
子供に腹立たしく思った事。  
夜になるとすぐに眠くなり  
宿題を抱え、机の前で眠っ  
てしまおう子供を起こして、  
途方にくれた事。自立心の  
ない子供に悲観した事等、  
六年間の数多くの思い出が、  
浮かんで来ます。先生の

「いつでも教室は開放して  
います。時間があたら参  
観に来て下さい。」と言わ  
れて、最初は、とまどいも  
ありませんが、悩みは次々

と出て来るものです。その  
たびに、この開放教室で励  
まされ、御指導を受け、ど  
れだけ親としての方針を導  
いていたのだらうでしょう。

我が子だけは大丈夫と思っ  
ていた私でしたが、他の子  
供さんの中の我が子を見る  
事で、しつけ、教育に無関  
心だった私にとって、多く  
の学びをさせていたくださ  
ました。子供達も諸先生の尊  
いお教えを、いつまでも忘  
れず、心身共に健康な中学  
生になってくれる事と思  
います。

高嶋 照美

まだまだと思っていた卒  
業が、もう目の前！  
一際目立つ真新しい校舎  
と広い校庭で、勉強、そし  
て運動と色々な体験した幸  
せな子供達が今巣立とうと  
しています。

思えば幼稚園、小学校と  
七年間の間には沢山の思  
い出が浮かびますが、入学し  
た当時村の中を自転車で行  
り回りハラハラしどうした  
た事、排水路の泥の中から  
沢山のザリガニを捕らえ、  
自慢げに見せた顔が昨日の  
様に思い出されます。  
そんな我が子もだんだん  
学年が進につれ、少々男ら  
しくもなり頼もしさも出て  
きました。

四月から中学生心身共に  
成長してほしいものです。

安竹 美枝子

「ただいま」と白い紙を差  
し出す。「まあくん学校か  
らの通知や四月から中学一  
年生になれるんやよかった  
のー」子供は「あたりまえ  
やー」とあじけない返事、  
でも親として一枚の紙だけ  
ど心が温まり本当にうれし  
く思います。

ふりかえれば、四年、五  
年の二年間、大寒の時も一  
年中素足で頑張り通した。  
まっ赤になった足、足の裏  
はその時強く大きくな  
りました。そのつらい気持  
ちを忘れないでほしいと思  
います。「今年靴下はく  
よ」「どうして」と反対に  
尋ねると「新郷の子はどん  
くさいといわれるんや」と  
早くもカッコつけています。  
不安と期待と複雑な気持ち  
で「お母さん自転車に学生  
服に黒いカバンも買って」  
とせぶって……。

春の来るのを親子で待  
っている今日この頃です。

高橋 正徳

六年生諸君、卒業おめで  
とう。月日のたつのは早い  
もので入学したのが昨日の  
様におもえてなりません。  
この六年間諸君が学んで  
来たものは、算数、国語、  
あるいは社会……等々の勉  
強だけではなかったはずで  
す。

成長してほしいものです。



「教育は人の心を養うものにして……。」

諭吉が唱えた一節ですが、正にその通りだと思えます。今、社会問題になっている「いじめ」幸い君達の間には、そういったものはありません。本当に喜ばしいことです。

それは何故だろうか。初めて幼稚園に入った時、見知らぬ者が互いに知り合い、知らず知らずのうちに、手をつなぎ、力を合わせ、励まし合い、仲良く勉強してきたこと。これは学校生活の中で秩序というものを尊んで来たからだと思えます。今一度過去を振り返って、

今日まで一つ一つ身に付けてきた「和」というものを重んじて、明日からの中学生生活へのステップの踏み台として、大きくのびのびと生きてほしいものです。

山本 知佐恵

長い月日の小学校生活とも後、わずかでお別れする時が、刻々とせまってきた。振り返って見れば、楽しい事ばかりが、頭の中を通りすぎます。中でも、地区ぐるみの体育大会が一番の印象です。この様な風景は、子供の頃から余り見られなかった様に思われます。この、和気藹藹の光景が、今のいじめ等も作らない現状ではないでしょ

うか。でも、時代の流れは早いものですから、この様な田舎にも、都会風の問題がこれからは起こらないとは限りません。先生方には、お忙しい仕事の中にも、子供に常に、気配りをしていただき、愛の目を、そして、素直な新郷にしかないと、

ほこれる様な子供に成長する様に、今後の御指導もよろしくお願い致します。諸先生方には、本当に長い間、お世話になり心から感謝致します。

新田 文江

私達も新郷小に来てから長い月日が立って、九年間たちました。毎年の子供達とのふれ合い、また楽しい運動会、修学旅行やいろいろなもおもしろい。長い間には、先生方、PTAの皆様のお世話もして来ました。何かとお世話になりました。ありがとうございます。

私の子供も、後一ヶ月半ほどで六年生を卒業出来る事となり、無事にここまで来ました。皆様方、先生方の力ぞえの賜と、心より喜んで居ます。新郷校に居た時のことは、良き思い出に残る事でしよう。長い間、色々ありがとうございました。

新郷 美枝子

今子供達は、物量の豊か

なまった中で生活しています。私が小学生の頃は、戦争中程ではないがこんな

に豊かでは無く物が乏しい時代でした。だからがまんする事も今程むずかしくな

ったと思います。お金も今程自由でなかったし、品物もなかったようです。今あふれる品々の中にある程度買える力を持って子供達は立っています。どれを取りどれをがまんするか、私達が物が無かった時のがまんより、もっとつらい事だと思えます。がまんする事は自分をコントロールする原点です。だから、がまんする心を大切にしないで

北林 靖子

早いもので、小学校へ入学したのも、昨日のようですが、もはや卒業、あつと言期間です。世の流れの速い中で、子供と一緒に学ぶことが、沢山ありました。それにしても、いつも反省

することはかりでした。厳しい指導の中で、子供はいじめもなく、すくすく育ってくれ、うれしきかぎりです。これからも、体をきたえて、大勢の人に、好かれる明るい人間味のある、子供に育ってほしいものです。

大きく大きく、羽ばたいて下さい。

齊藤 麗子

「いつてきまーす。」今日もまた「くんち塾」へ出かけていきます。新聞作り、社会の歴史調べ、百人一首、卓球等々、事ある毎に、仲良し五人組は、集まります。わいわい、きゃーきゃーと大変賑やかです。これからもこの明るさを失わないように、いつまでも仲良し五人組で、助け合っています。最後になりましたが、先生方には大変お世話になりました。ありがとうございます。

北嶋 好美

去年に続き今年も、次女が、卒業を迎える事になり、小学校教育も終わろうとしています。ただ年月だけが、過ぎて来たように思います。

六年間の間には、親も、子も、楽しい思い出もあり、いろいろな問題に悩んで、先生方の御指導を受けた事も数多くあり、一つでも解決しようとして努力をした次第です。でも、もう中学生です。その一つ一つの経験を生かして、自分自身の道を見つけて、精いっぱい頑張って進んでほしいと願っています。

篠崎 茂子

「光陰矢のごとし」本当に月日のたつのは早いものです。「わらびしい！おとなしい！」といつも言われていた我が子。「はたして皆と一緒にいていけるかしら。」と不安と心配でいっぱいでした。でもそんな心配もおそれることなく、皆と一緒にいてくれました。とてもうれしく思います。たとえ勉強が少々出来なくとも丈夫な体で皆と仲よく生活して行ってくれるようにいつも願っています。これからは苦しい事、楽しい事、いろいろな事がありますが、頑張りたい人間になつてもらいたいと思います。

高政 光子

入学以来、六年間の義務教育を終える事が出来ました。これも、これ一重に、校長先生はじめ諸先生方のご慈愛こもるご指導のたまものと深く感謝いたしております。

六年と云う歳月は、長いようでもありました。実際に短かったようにも思われます。ランドセルを背負っての初登校の事や楽しかった運動会の事などつい昨日の事のように思い出されます。先日夕食後、学校での出来事を話してくれる娘の口から、米、ソの核兵器問題などが飛び出し社会問題に

は、縁遠い私にとつては驚きでした。大きく成長した娘を見て学校生活の、素晴らしいと先生のご指導に頭の下がる思いで一杯になりました。不安と輝かしい希望に満ちあふれる娘ではございませんが、これからは多くの困難や苦しい事も多々あるやに思われますが、先生のお教を闇夜の灯と考え正しい道を求めて着実に一歩一歩を踏みしめていってほしいと願うばかりでございます。

土田 蘭美

最近新聞テレビ等でもっとも感心があるのは、今問題になっている「いじめ」ではないでしょうか。どこに原因があるのか、それはだれも知らないだろう。知っているのは本人だけ、私はそう思う。明るく素直で思いやりのある子供が特に少ない今日此の頃です。何一つ不自由のない時代に生まれ育った子供達、あまりにめぐまれません。物の大切さ、人への親切感覚が昔に比べて少なくなつたのは事実でしょう。私の子は生後祖父母にめぐまれます。幸か不幸か。「私達二人で今日まで育ててきました。精一杯明るい子に育てて来たつもりです。

一杯明るい子に育てて来たつもりです。



在学中お世話になった先生  
幼稚園担任

- 五十川 美津子先生
- 芦原町中番六一三七
- 一年担任

- 市野 弘 子先生
- 芦原町温泉五丁目
- 一八一七の二

- 二、三年担任
- 藤井 さち江先生
- 芦原町中番一三二〇

- 四、五、六年担任
- 宮川 哲二郎先生
- 芦原町上番五〇の四六



2年生旧校舎の前で

### 昭和六十年

## 輝く栄光

昭和六十年  
芦原町水泳記録会

- 六男 二五m自由型
- 二位 高嶋 邦央 一七六
- 六男 二五m自由型
- 三位 高橋 文彦 一八六
- 六男 五〇m自由型
- 三位 高嶋 邦央 四・七
- 六男 百mリレー

- 二位 高戸、高嶋、高橋、山本 一・五四
- 五位 二五m自由型
- 二位 山崎めぐみ 一九八
- 五位 五〇m自由型
- 三位 山崎めぐみ 四九〇
- 五位 二五m自由型
- 三位 北川 幸治 一九四
- 五男 百mリレー

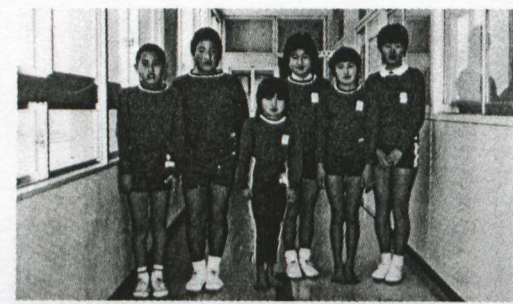
- 三位 高戸、西正、北川、青木 一・二七〇
- 五位 百mリレー
- 三位 岡田、中山、山崎、西正 一・三三二
- 四位 二五m自由型
- 五位 青木 純治 三・〇
- 六位 東 純子 三・三〇
- 第六回芦原町フットベース
- ボール大会に三位入賞
- 町陸上記録会
- 六男 百m
- 三位 高嶋 邦央 一四・四



### 思いやりを大切に 宮川学級

- 四男 百m
- 二位 篠崎 祐祥 一六・二
- 四男 五百m
- 二位 篠崎 祐祥 一四・三
- 六男 km
- 二位 山本 晶夫 三・七・九
- 四男 走幅跳
- 三位 高橋 将義 三・五
- 五位 ポール投げ
- 三位 吉江めぐみ 二六・七
- 六男 四百mリレー
- 一位 高嶋、高橋、山本、高戸 一〇・四
- 芦原町綱引き大会に
- ジュニアの部女子優勝
- 昭和六十年新郷校
- 入賞者名
- 読売紙上展
- 三席 四年 岡崎真智子
- 読売新聞社紙上書道展
- 三席 三年 林 亜寿香
- 第十一回小中学生
- 読売感想文コンクール
- 一年 原田 絹代
- 三年 白崎いづみ
- 五年 山崎めぐみ

- 福井新聞社
- 県小中学生書道展
- 特選 一年 林 美沙登
- 金賞 六年 高政 裕子
- 読売感想文コンクール
- 佳作 四年 江畑 将亨
- 五年 三上 敦子
- 杜明運動(習字)
- 入選 四年 岡崎真智子
- 五年 青木 利恵
- 五年 三上 敦子
- 六年 新郷由紀子
- 六年 高政 裕子



中日新聞社書き初め展  
特選 六年 高政 裕子  
五年 西政 晃子  
四年 岡崎真智子  
三年 林 亜寿香  
年賀はがき  
デザインコンクール銀賞

賞  
一年 小嶋てつ子  
一年 村田あゆみ  
三年 林 亜寿香  
三年 中辻 章雄  
三年 吉江由美  
五年 西正 晃子  
五年 白崎 一誠

元気な子  
この冬は大変な大雪となり、寒さも例年になく厳しい日が続きました。この寒さにもかかわらず、はだし、半ズボンで通した元気な子供達です。おかげでカゼをひかなくなりました。